

富山県知事 新田 八朗 殿

要 望 書

立山黒部アルペンルートは国内外から年間 80 万人以上の観光客が訪れる富山県を代表する観光地であり、登山やトレッキングを楽しむ人にも人気のエリアです。

また、国では訪日外国人を 2030 年に年間 6,000 万人とする目標掲げるなか、本年は、過去最高を記録した昨年を上回るペースで増加するなど、インバウンドは今後も増加が見込まれます。

こうしたなか、立山エリアに観光や登山で訪れる人のアクセスとしての重要な役割を担っている富山地方鉄道立山線のうち岩峯寺駅－立山駅間について、富山地方鉄道株式会社から、今後の運行維持が困難であるとの方針が示され、富山県及び沿線自治体において、今後のあり方について議論されていると聞いております。

立山黒部アルペンルート訪問者のうち、昨シーズンは年間約 10 万人（当社把握数）が立山線を利用しています。また、立山山麓の宿泊施設利用者や、夏の登山シーズンを中心に多くの登山者も立山線を利用しています。

万が一、岩峯寺駅－立山駅間の鉄道が廃止された場合、観光客の利便性は著しく低下し、来訪者の減少が懸念されます。

立山黒部アルペンルートを訪れる観光客等の県内宿泊を含めた観光消費の確保及び増大にも、富山駅と立山駅を結ぶアクセスとして富山地方鉄道立山線が全線にわたり維持されていることは極めて重要であると考えます。

立山黒部貫光をはじめとする観光関係団体一同は、これまでも訪問者に対して立山線の利用を促す取り組みを進めてまいりました。今後は、立山黒部アルペンルートへのさらなる入込人数の増加を目指し、地域と連携しながら、誘客活動を一層強化してまいります。こうした取り組みを通じて、インバウンドを含む立山線の利用者数の増加にもつながるものと考えております。

つきましては、富山地方鉄道立山線が全線にわたり今後も維持されるよう、格段のご配慮とご尽力をお願い申し上げます。

令和 7 年 8 月 29 日

立山黒部貫光株式会社 代表取締役社長 見角 要

立山山麓観光旅館組合 組合長 笹森 潤一

立山山荘協同組合 理事長 佐伯 光昭